

上海外国语大学 2017 年硕士研究生入学考试

日语语言文学 专业 日汉互译 试题

(考试时间 180 分钟，满分 150 分，共 4 页)

一、将下列日语文章译成汉语。(30)

九州へ立つ二日前兄が下宿へ来て金を六百円出してこれを資本にして商買をするなり、学資にして勉強をするなり、どうしても随意に使うがいい、その代りあとは構わないと云った。兄にしては感心なやり方だ、何の六百円ぐらい貰わんでも困りはせんと思ったが、例に似ぬ淡泊な処置が気に入ったから、礼を云って貰っておいた。兄はそれから五十円出してこれをついでに清に渡してくれと云ったから、異議なく引き受けた。二日立って新橋の駐車場で分れたぎり兄にはその後一遍も逢わない。

おれは六百円の使用法について寝ながら考えた。商買をしたって面倒くさくって旨く出来るものじゃなし、ことに六百円の金で商買らしい商買がやれる訳でもなかろう。よしやれるとしても、今のように人の前へ出て教育を受けたと威張れないからつまり損になるばかりだ。資本などはどうでもいいから、これを学資にして勉強してやろう。六百円を三に割って一年に二百円ずつ使えば三年間は勉強が出来る。三年間一生懸命にやれば何か出来る。それからどこの学校へはいろいろと考えたが、学問は生来どれもこれも好きでない。ことに語学とか文学とか云うものは真平ご免だ。新体詩などと来ては二十行あるうちで一行も分らない。どうせ嫌いなものなら何をやっても同じ事だと思ったが、幸い物理学校の前を通り掛ったら生徒募集の広告が出ていたから、何も縁だと思って規則書もらってすぐ入学の手続きをしてしまった。今考えるとこれも親譲りの無鉄砲から起った失策だ。

(夏目漱石『坊っちゃん』より)

二、将下列日语文章译成汉语。(40)

俳優であり俳人でもあった渥美清さんに次の句がある。〈赤とんぼじつとしたまま明日どうする〉。詠んだのは63歳の秋。じつと動かないトンボに四角い顔を寄せ、何ごとかつぶやく名優の姿が目浮かぶ。

先日、取材で訪ねた長崎県佐世保市で赤トンボをじつと観察した。県版レッドリストで絶滅危惧種に指定されたミヤマアカネ。「深山茜(みやまあかね)」と漢字で書いても美しい。隣の佐賀県も含め生息数が減り、佐世保市では環境団体「ふるさと自然の会」が20年前から保存に努めてきた。

「休耕田が増え、苗にまく農薬が変わったのが急減の原因だと見ています」と川内野善治(かわちのよしはる)会長。公務員として市役所で働くかわら、地元の希少な動植物を調べてきた。

繁殖に欠かせないのは水の流れ。急流にはすめない。田でも水が漏れず農薬のよく効くところは向かない。最適なのは水がちよろちよろと流れ出る棚田とわかり、川内野さんは農家から棚田を借りた。食べるためではない。トンボを育てるためである。

会員の手を借りて田植え、ヒエ抜き、稲刈り、掛け干し、脱穀、精米。それでも、羽に白い印をつけて数えると、4年前に1622匹いたのが、今年は734匹どまり。「私らが棚田をやめたら県内ではもう絶滅が近い。責任は重大です。」

間近で見るとミヤマアカネはなかなか精悍である。お尻を太陽に向けてまっすぐ突き上げる姿など五輪の体操選手のような。実りの9月、棚田を歩きながらトンボと田んぼの行く末を案じた。

(『朝日新聞』2016年9月22日「天声人語」より、一部修正あり)

三、将下列汉语文章译成日语。(40)

改革开放 30 多年过去，弹指一挥间。今天，随着中国经济体量的增大以及同世界的合作不断加深，中国经济走向受到外界关注。很多人都关心，中国经济能否实现持续稳定增长？比如我们在座的各位国际组织的负责人。中国能否把改革开放推进下去？中国能否避免陷入“中等收入陷阱”？

行胜于言。中国用实际行动对这些问题作出了回答。今年年初，中国出台了国民经济和社会发展第十三个五年规划纲要，围绕全面建成小康社会奋斗目标，针对发展不平衡、不协调、不可持续等突出问题，强调要牢固树立和坚决贯彻创新、协调、绿色、开放、共享的发展理念。这是我们第十三个五年规划的精髓，就是这五大发展理念。

今天的中国，已经站在新的历史起点上。这个新起点，就是中国全面深化改革、增加经济社会发展新动力的新起点，就是中国适应经济发展新常态、转变经济发展方式的新起点，就是中国同世界深度互动、向世界深度开放的新起点。我们有信心、有能力保持经济中高速增长，继续在实现自身发展的同时为世界带来更多发展机遇。

(选自 习近平 “二十国集团工商峰会开幕式主旨演讲”)

四、将下列汉语文章译成日语。(40)

《井上靖的晚年与〈孔子〉》(摘要)

本论文选取井上靖的历史小说《孔子》为研究对象，考察了井上靖在小说中所塑造的孔子形象及其创作意图。

绪论部分对先行研究作了整理并介绍本论文的研究目的和论文结构。本论文的研究目的有两点。其一是探明井上靖是如何运用史料，塑造出怎样一个孔子形象的。其二是探讨井上靖在小说中所寄托的思想，并在此基础上探究其与井上靖所塑造的孔子形象之间的关联性。

本论部分由三章构成。第一章探讨了《孔子》的创作背景和小说中叙述视角的设定，并分析了井上靖所设定的叙述视角对于塑造孔子的形象所发挥的作用。第二章对小说叙述者蔦姜眼中的春秋时代和孔子作了分析，并探讨

井上靖是如何运用史料描绘孔子所生活过的时代及其本人形象的。先行研究主要关注的是井上靖对于《论语》的独到解读，而本论文不局限于此，还关注并探讨了井上靖从《史记》、《孟子》和《春秋左氏传》等其它史料中引用的内容和在作品中的运用。第三章基于第二章所探明的孔子形象与井上靖创作意图之间的联系，从 20 世纪 80 年代的时代背景和井上靖个人的人生体验两个角度出发进行了考察。虽然在先行研究中有论文提及过以上两点，但未作深入探讨。

（略）

（选自 上海外国语大学 2016 届硕士学位论文）